

工
院
協
(1/10)

教授会自治粉碎

(1) 日 定
午前 各クラス テーブル (市大講義棟)
1:30-5:00 討論集会 (於 階段教室)

団交要求ストに起て!

我々の団交要求の公布要請状に対して当局は、教授会あるいは学生部を経て手続きを踏
めと言った単なる形式論で答えてきた。当局が現在でも言いつづけている「話し合い」をす
る為だけに教授会による話し合いの内容、形式にわたるチェックを緩めなければならない
言ったことは何を意味するのな。しかも現状において、理學部あるいは文部系諸學部のよ
うに、学生の団交要求の声を教授会が嫉視しつつ、とくに理學部においては、院生大会
學生大会の決議事項を無論理に無視している。これらのことは、先日の物置リコーにあげ
るのを後、たつた決議破壊、ゆる、ルヤにあげる等内々その弾正等と同様に市大にき
於て医學部民主化基本綱領以来一貫して主要な問題として提起され、当局が反省し、改革
しなければならないと言ってきた筈の「教授会自治」が今またその当局による堅持され、
されにや。てゆい専長所信にもみられる如く同大独自の現行組織がなすあ憂鬱されている
ことを如更に示すのである。我々は当局が相変わらず改革の姿勢をええ持たなければならない
断定せざるを得ない。従来、我々はこの「教授会自治」を打破するために話し合いを続け
て来し、今も専長等との主要な課題がそこにあることには変わりはないであろう。大学の改革
は従来の体制(教授会自治)を支えて来た教授の認識の範囲内での改革案に不連続に移、
ていくそのことで実現されるのではなく、従来の秩序、制度を新しく認識(学生)の大家
的結集によって連続的に破壊する過程で刷新されるものである。新しい制度とはその実
質を時間的に与えるものとしてこの後に設定されることにはなるものな。団交の内容は
別として上に述べた意味において、我々が団交を改革の過程(教授会自治の打破)に
位置づける限り、その団交を現在のわく、協議会の手続き論(この本質を見抜くことな
くす。即ちはわくも限りにあいて改革の意義を失う可能性を存在するもの)については確認さ
れなければならない。さうして改革が連続的過程で刷新されるものである限り、単に今回
の団交を用いたものとして自己満足ではならない。つまり本質的にはどのエネル
ギーをいつまでも持続化していくかを十分各自が認識しなければ今回の団交が単なる一回のセ
レモニーに終るのではなるものな。我々工院協は現在起っているエネルギー、あるいは団
交に結集できたエネルギーを連続化し、改革を不断のものとする意図を持って、一つに自
主力のキエラムにあるいはリキエラム等を行いつつある。この現行工院協助会、助会
が市大の課程で獲得したエネルギーを全工院協的に結集あるいは連続化するものとし
て「助會会議」を実現しつつあるが我々もこれに自らの主張を堅持しつつ参加する多岐で
ある。改革を貫徹あるいは刷新するため、我々はこれまでの日産的意図を更に深化
させ、さうして日産的な意図を自己内部に確立しつつ現行我々を支持しているエネルギーを
刷新化しなければならない。ただ、これまでの工院協に於て我々の姿勢は明らかにな
らうに、カリキエラム等は現在の市大の本質的な一面面である筈、研究にたける理
本的な問題を起し、明らかにするものであり、更には教育、研究にまで及んでいる管
理、被管理の関係を打破するものではない。一程度度カリキエラム等が持
ていているものの我々自身は日産性に理詰めてこまごましつつ可能性は、我々を外的に作り
出す緊張関係を保持しつつ、一層の質的に高し自意と質(非日産性の自己構築)による。
てその歴史の連続性を止めてはならない。これはわくである。

女団交準備会 女6 女5 女4 女3 女2 女1